

サポート通信

平成29年11月27日 発行
広島市立広島特別支援学校

No. 17

特別支援教育センター校からの情報発信・ネットワーク



■ サポートセンターだより

前回、「総ルビ分かち書き教科書」を御紹介しました。各校、児童生徒に合わせて活用の幅が広がっており、大変参考になりましたので、皆様にも御紹介したいと思います。

ケース1 ～表紙を付けてより使いやすく！～

「是非試してみたい児童がいて…」とこのサポート通信をきっかけに学校から問い合わせをいただき、「総ルビ分かち書き教科書」の活用がスタートしたケースです。学校から保護者と児童へ「総ルビ分かち書き教科書」について丁寧な説明を行い、試してみた結果、「読みやすい。使ってみよう」ということになったそうです。このルビ付き教科書は、A4サイズでPDFをコピーしたものであるため、学校側の配慮で、教科書の表紙をスキャンして通常の教科書に近い形にリメイクされたそうです。見た目が違うことで「使うのはちょっと…」とためらうことなく、分かるための入り口が上手いくための、子どもの気持ちに寄り添ったきめ細かな配慮でした。児童は授業の中で安心して使っているそうです。



ケース2 ～本人も納得し、周りの児童にも周知を図り安心して使えるように～

来校相談で本人に「総ルビ分かち書き教科書」を試してみると、「これ、欲しい！」と児童が真っ先に使い勝手の良さを理解し、学校とも連携しながら取り組んだケースです。しかし、学校に持ってはいくものの、机の中から出せずにいたそうです。先生はそれを知って、本人に「自分でわかると思うものは使っていいんだよ。出して使おう。」と声を掛けてくださり、周りの児童へも「分かるものを使って学習することは当然のこと。誰でも同じ。」と明確に説明してくださったそうです。それからは、いつもと同じ教科書を出す感覚で「総ルビ分かち書き教科書」を出し、最後まで丁寧に音読をしたり、大事なところに線を引いたりとしっかり活用できているそうです。

ケース3 ～テストもルビ付きで実力発揮！次へつなぐ個別の教育支援計画を作成～

これまでテストに向かおうとしなかった読み困難のある児童に、テストにルビを振ることで取り組むようになったケースです。読めるので、自信をもってテストに向かうようになりました。そのことによって、児童の本来の学習の理解度を正しく測ることができているということです。初めは担任の先生からさりげなく渡してもらっていたテストも、今では本人にとってなくてはならない支援だと思えてきているようです。次のステージへ引継ぐための個別の教育支援計画を作成中だそうです。

■ こんな教材作りました！

中学部3年生になり、進学のことや将来の就労について、本格的に意識する時期となりました。そこで、まずは礼儀、特にきちんとした「挨拶」ができるようにしたいと思い、日常的な挨拶の言葉や御礼の言葉が言えるようになるための学習をしました。

NHK for School のウェブサイトの中に、「銀河銭湯パンタくん」という道徳の学習コンテンツがあります。NHK for School は、NHKの学校向けコンテンツの総称です。今回授業で利用した「銀河銭湯パンタくん」は、人形劇による番組で、生徒たちにも大変理解しやすい内容となっています。

まず、この番組の第4回「ドレープのあいさつ講座」(図1)を授業の導入として視聴させました。番組を見た後は、この番組の映像を加工して作成したスライドショーを使いながら、挨拶や礼儀の大切さについて考えさせました。(図2)さらに、朝登校したときや下校するとき、誰かに出会ったときなどの具体的な場面を想定して、その場にふさわしい挨拶の言葉を考えさせたり(図3)、挨拶をする練習をさせたりしました。(図4)

「銀河銭湯パンタくん」では、正直や親切といった道徳的なテーマを、子どもたちが共感しやすい設定の中で考えさせ、どう行動すべきかを自分自身に置き換えて考えさせてくれます。放送時間も10分と短いので、生徒は集中してよく画面を見ていました。

この学習をしたことで、生徒たちは、「おはよう。」と言って、毎朝教室に入ってくるようになりました。「ありがとう」や「お願いします。」といった言葉も、よく口にするようになったと感じます。

NHK For School には、授業で使えるような多くのコンテンツがあります。

次は、声の大きさの調節を意識してほしい生徒に、NHK for School のウェブサイト「スマイル」を活用してみようと考えています。



図1 番組を視聴する生徒の様子



図2 挨拶が大切な理由を考える様子

朝、学校に来たとき 先生やおとなの人には…

おはようございます。



友達には…

おはよう

図3 場面に応じた挨拶の言葉を考えるためのスライド映像



図4 挨拶の練習をする様子

■ 夏のアセスメント研修報告

8月8、9日にサポートセンター研修がありました。今年度は、田中ビネーVを基礎編と実践編の2日間に分けて研修していききました。

1日目の基礎編では、「田中ビネー知能検査V」の構成の概要、検査項目と実施の仕方を知ingことをねらいに講義や年齢別のグループでの演習の実践を行いました。「子どもたちが受けている発達テストの大まかな内容が分かった。」などと研修を通して、田中ビネーの概要を理解できたとの声を多くいただきました。

2日目の実践編では、3グループ別で実際の児童を想定した被験者を相手に、参加者の先生方に検査を実施（3歳級～6歳級）していただきました。検査を実施した後、グループの皆さんで協力して検査の集計、下位検査の合否や検査時の行動などから児童の得意不得意の見取りを行っていただきました。先生方の経験を元に話し合われ、いろいろな意見が活発に出ていました。また、実際に学級にいたら、どのような支援が必要となるのかまで深く見取りも行いました。「IQが同じでも、下位検査項目の合否が違くと、子どもの取り組み方や様子が全く違うことが分かった。その特徴を捉えて、その子に合った支援方法を実施していかなければならないことが分かった。」と御感想をいただき、3グループでの話し合いの内容を交流することで、IQが同じでも合格している下位検査が違ふこと、取り組み方や行動の様子が違ふことが分かり、検査結果の数値が全てではないと実感していただくことができました。

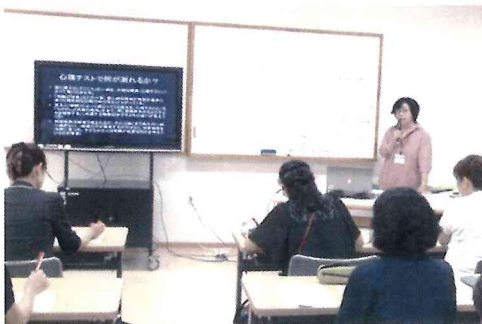
来年度も、「あなたの眼から見える世界は、あなた次第で変化する」をモットーに、より日々の実践に行かせる研修をしていきたいと思ひます。今後ともサポートセンター研修をよろしくお願ひします。

田中ビネー知能検査Vとは・・・

☆「暦年齢に対してどのくらい発達しているのか」「どんなことができ、どんなことができていないのか」を知ることができ、必要な指導や支援を考えるためのヒントになります。

☆適応年齢は2歳～成人、検査問題は1歳級（1歳の子の50%ができる）～成人級で構成され、1歳級を満たさない子どものための指標となる「発達チェック」という項目もあります。

↓ 1日目、講義の様子



↓ 2日目、検査集計、見取り、分析の様子



参加者の声

- 検査結果からの読み取りの方法が参考になった。子どもの観察に生かしたい。
- 検査方法や内容を知ることができた。検査結果をもとに子どもの手立てや理解を深めたい。

■ おすすめ書籍



イラストでわかる特別支援教育サポート事典「子どもの困った」に対応する99の実例

笹森 洋樹 編著 (合同出版発行)

定価 (本体 3 2 0 0 円 + 税)

授業中に、自分を何度も指名してほしいと騒ぐ。登校後、時間割を書いたり、ランドセルの後始末をしたりすることなく、遊んでしまう等々……。学級で毎日のように目にする「困った」場面ですね。低学年の内は、それほど気にしないで一緒に過ごすことができている周りの子どもたちにとって、学年が上がるにつれ、「困った」存在と映るようになりがちです。そんな、周りから「困った」と思われてしまう子ども自身が、どうしたらいいのか「困って」いる状況に、有効な言葉掛けや支援の方法を、この本は伝えてくれます。

学習場面や生活面、学校行事や家庭との連携など、学校生活上で「困って」いる子どもに、担任としてどのように支援することができるのかを、イラストで具体的に提案してくれています。どのような場面で子どもが「困って」しまうのか知りたい、子どもが「困って」いることは分かるけれども、どう支援をすればよいのか迷っている、そんな先生に是非お勧めの一冊です。

■ 編集後記

秋風とともにサポート通信をお送りいたします。今年度の夏休みもサポートセンター研修に多数御参加いただきありがとうございました。簡単ではありますが研修会の様子を伝えていきますので御覧ください。皆様の熱意が夏の研修を支えています。来年度も充実した研修会になるよう、内容や構成等検討したいと思いますので今後ともよろしくお願いします。

今号には本校中学部の取組も掲載しております。日々、試行錯誤しながら授業をしています。記事に関しての皆様方の御感想など、下記へ御連絡いただけましたら幸いです。

■ 記事に関するお問い合わせ

広島市立広島特別支援学校
〒734-0013 広島市南区出島四丁目1番1号
TEL (082) 250-7101 FAX (082) 250-7102
担当 特別支援教育コーディネーター 林 美香子
MAIL: yougo-s@e.city.hiroshima.jp

